



2024年8月26日

各 位

会 社 名 澁 谷 工 業 株 式 会 社
代 表 者 名 取 締 役 社 長 澁 谷 英 利
(コト`番号 6340 東証プライム・名証プレミア)
問 合 せ 先 取 締 役 副 社 長 河 村 孝 志
(TEL 076 - 262 - 1201)

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2025年6月期から2027年6月期を対象期間とする3ヵ年の中期経営計画を別紙のとおり策定いたしましたので、お知らせいたします。

以上



Shibuya
World Leading Technology

中期経営計画 2027

シブヤ上げ潮戦略

澁谷工業株式会社
2024年8月26日



企業理念

SHIBUYA 未来ビジョン宣言

Mission

私たちの使命

ダントツ製品でお客様の繁栄をサポート

Vision

私たちの志

生活に不可欠な業界の製造を支える
リーディングカンパニー

Value

私たちの価値観

グローバル市場で持続的に成長

企業理念

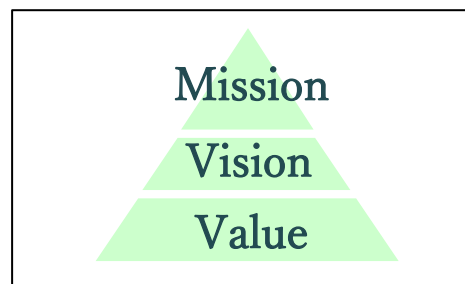


創業の原点は「喜んで働く」

日訓

一 今日一日喜んで働きましょう
二 今日一日の喜びを言わず
三 今日一日他の喜びを言わず
四 今日一日機械と工具に感謝して働きましょう
五 仕事に突意丁寧を忘れず
六 姿勢は低く自信は高く持てる人に接しましょう
七 快力一致たのしい職場にいたしましょう

シブヤ魂
の体得と実践



初代社長が制定した「日訓7か条」は、「喜んで働く」から始まり、すべてのものに感謝する心をもつことが、良い仕事・明るい職場・自身の健康に繋がることを企業理念とし、毎週朝礼で全社員が唱和しています。

財団設立をとおして地域社会との発展をめざし、何事もやりぬく根性で困難には上の立場ほど自ら先頭に立ち、常に明るく前向きであれとシブヤ魂を体得し実践した経営基盤があり今日があります。

私たちは今、
承継すべきものに新しい時代の変化を取り入れる「ふえきりゅうこう不易流行」の理念を全社で共有し、新たなステージへ挑戦します。

Mission

(Why - 存在意義)

－ 当社の実現したい思い －

Mission

ダントツ製品でお客様の繁栄をサポートする

お客様の繁栄が設備投資に

つながり設備メーカーの発展があります

創業時からのカスタマー・ファーストを貫きます

お客様の安全・安心・安定の生産を常にサポートします

産官学連携など新しい知恵と工夫で新技術をお客様へ提案します

高品質な製品を高効率で生産する最先端システムでお客様の発展を支援します

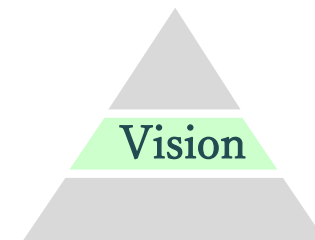
営業部門が新たなニーズを発掘し、技術陣が「世界に未だない“ほんもの”」を創り出します

ダントツ製品の開発から企業成長を実現し、お客様の生産ラインの永続的な稼働をめざします

Vision

(What - 理想像)

－ どんな会社になるのか －



生活に不可欠な業界の製造を支える リーディングカンパニー

1. 世界じゅうの人々の生活に不可欠な製品づくりを革新する会社になる

飲料・食品・医薬品・医療・農産物・半導体。どの業界も人類が生きるため必要とされ、その生産ラインは止められない使命があります。私たちはそれら供給責任を持続可能とし品質向上する最新技術を追求していきます。

2. 人と社会と地球に優しい生産活動を実現する会社になる

私たちは、人類のより豊かな生活のため、自社のテクノロジーと幅広い人財を通じて、地球環境に優しい生産活動をめざすお客様のイノベーションをサポートし、幸福な社会の達成に貢献していきます。

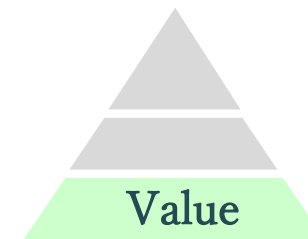
3. 多様性を重視しすべてのステークホルダーとともに成長する会社になる

私たちは、お客様・株主様・取引先や地域社会とともに未来社会を考え、DEI（多様性^{Diversity}、公平性^{Equity}、包含性^{Inclusion}）を推進し、中途経験者・女性・外国人など多様な人材が「自分らしく」共に働き、全員のWell-beingをめざしていきます。

Value

(How - 行動指針)

－ どのように実行するか －



グローバル市場で持続的に成長する

私たちは2031年3月に創業100周年という大きな節目を迎えます。
2030年6月期に連結売上高2,000億円達成を目標としグローバル展開を加速します。

1. 日本のアイデアを世界へ

日本は、高齢化や人手不足が課題となっています。省人化・無人化のニーズに対応したシステムは社会貢献に繋がっています。世界最速の高齢化が進行する日本のアイデアは海外にも役立つ前向きな機会と捉えています。

2. ダントツのサービスサポートを世界へ

当社の製品を納入させて頂いたユーザー様による当社サービスサポートの評価が高く、新製品や既設の設備計画へリピートオーダーを頂ける確率が高いことに感謝し、ご期待以上のカスタマーサポートをグローバルで提供してまいります。

3. One Shibuyaグループ戦略で世界へ

当社の発展の戦略の一つにM&Aがあり、新しい事業領域へ参画し、既存のコア技術とのシナジーを生み出してきました。グループ内での交流を活かし、グローバル市場でより効率的で多角的な活動を実践していきます。

目次

I. 会社概要

- Shibuya未来ビジョン宣言MVV
- Shibuya at a Glance
- Our Business
- Global Activities
- Global Network

II. シブヤの強み

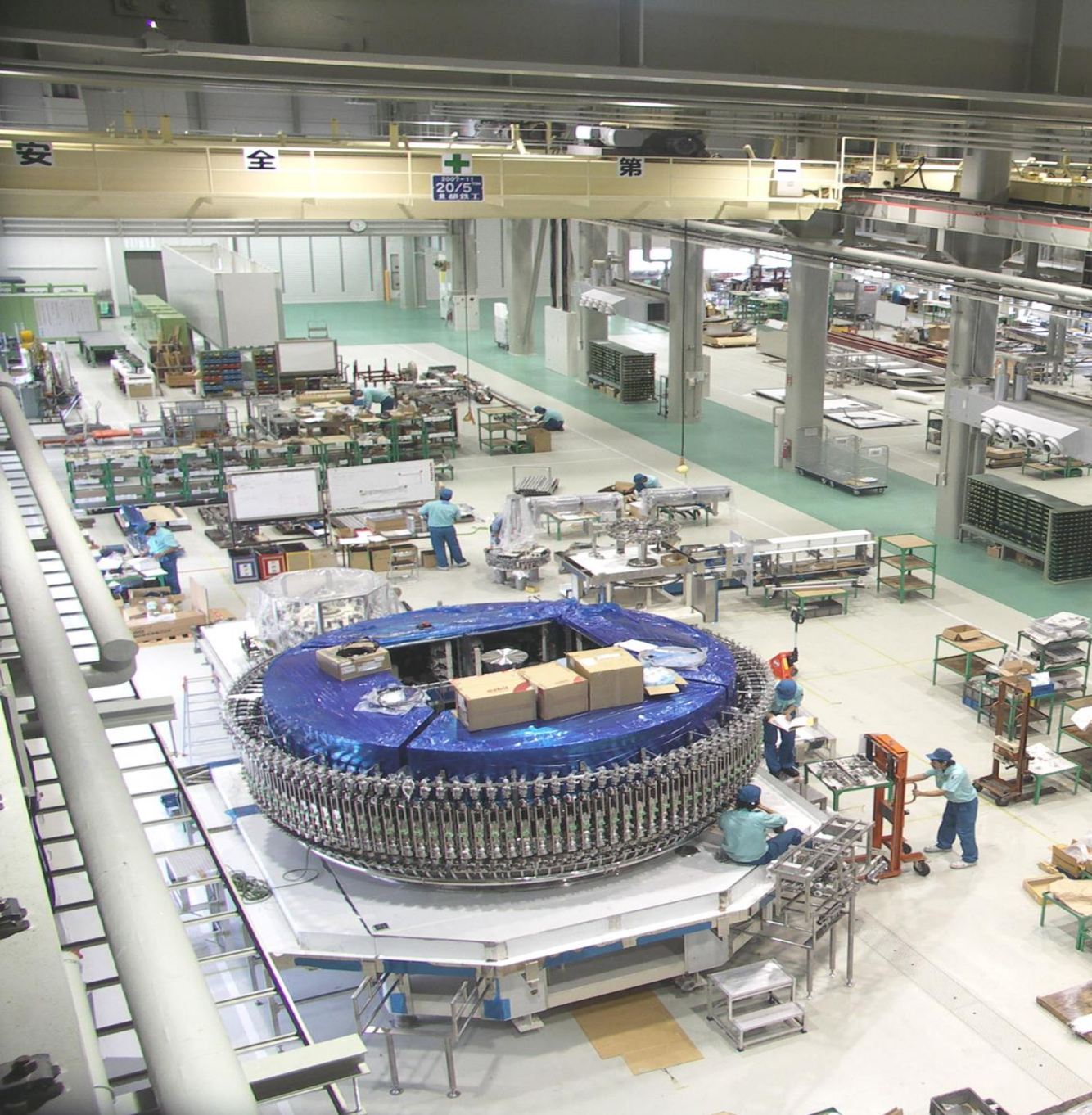
- コア技術を応用し異分野へ展開
- 顧客に直結した営業・サービス体制
- デジタル化・DXを活用したものづくり
- シブヤ独自の経営管理体制
- M & Aによる業容拡大

III. 成長戦略

- 2030年ビジョン
- 新製品開発
- 新市場開拓
- 新事業創出
- 環境への貢献

IV. 中期経営計画

- 中期数値目標
- 戦略目標
- 事業展開（セグメント別）
- セグメント別中期経営目標
 - パッケージングプラント事業
 - メカトロシステム事業/農業用設備事業
- 株主資本コストや株価を意識した経営
- キャッシュアロケーション方針
- 株主還元方針
- 顧客、地域社会に寄り添うESG戦略



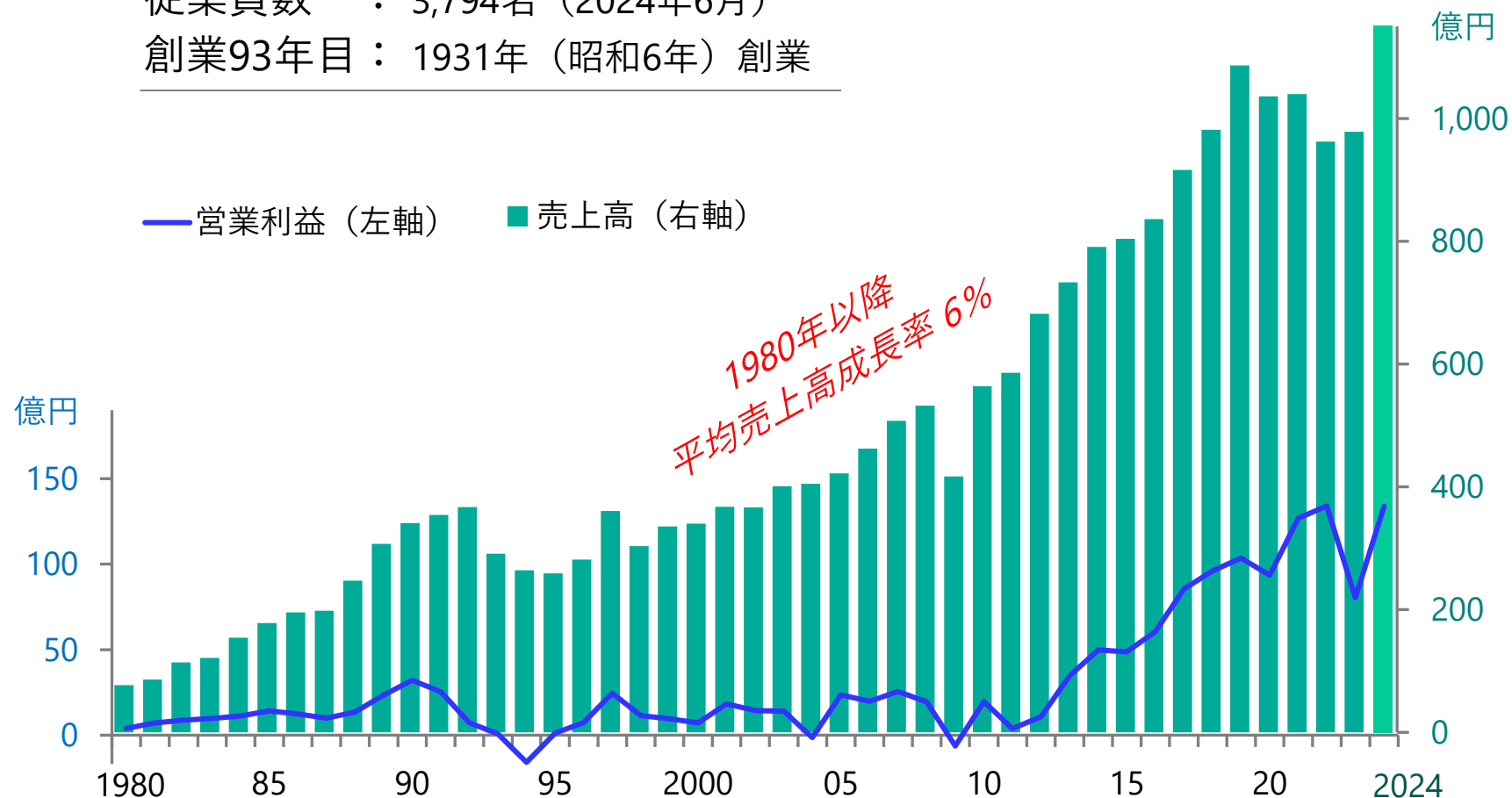
I. 会社概要

Corporate Profile

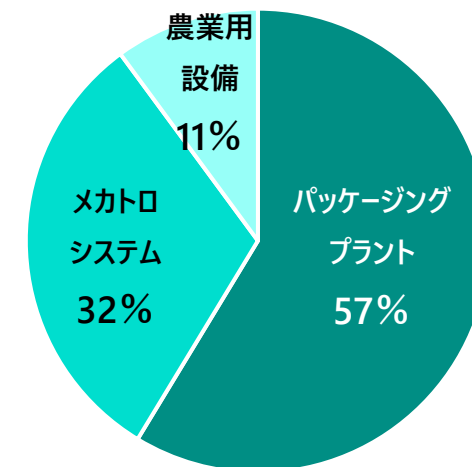
Shibuya at a Glance

事業の概況

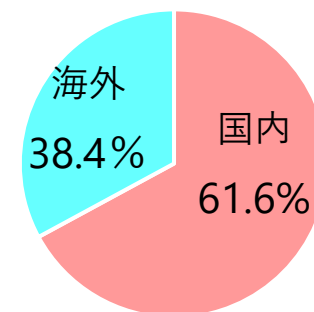
従業員数 : 3,794名 (2024年6月)
創業93年目 : 1931年 (昭和6年) 創業



売上高構成 (2024年6月期)



売上高 1,154億円
株主資本 965億円
総資産 1,619億円
営業利益 133億円



Our Business

私たちの市場領域 - お客様の高品質な製品のために

飲料・日用品

ボトルング充填設備

- 多品種兼用充填包装システム
- 飲料無菌充填システム

ろ過滅菌・調製設備

- アセプティックモジュール
- 飲料製造無菌水供給設備



半導体製造設備

- 半導体実装装置
- LED検査装置
- 超音波洗浄装置

工作加工設備

- レーザ切断加工機
- ウォータージェット切断加工機
- 高圧洗浄システム
- 油圧プレス機

メカトロニクス



ライフサイエンス

医薬品製造設備

- 注射剤無菌製造システム
- ワクチン製造システム
- アイソレータ滅菌システム

再生医療

- 細胞培養アイソレータ
- 自動細胞培養システム
- バイオ3Dプリンター
- バイオマテリアル

医療機器

- 透析装置
- レーザ皮膚治療器



農業選別設備

- 選果選別システム
- 果実糖度分析システム
- 土壌分析システム

食品包装加工設備

- カップめん充填シール機
- 納豆充填シール機
- アイスcream包装機
- 過熱水蒸気式焼成機

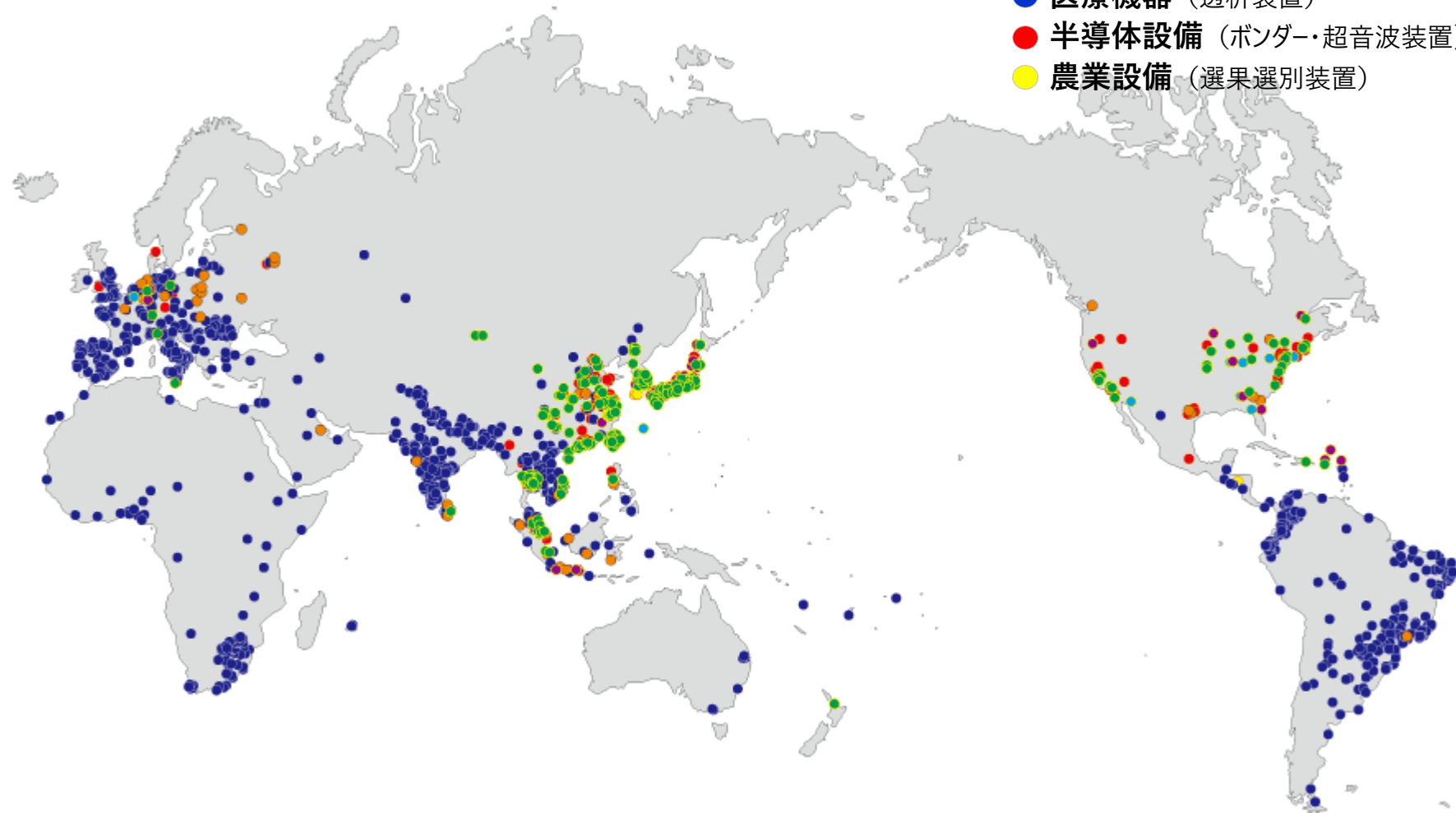
農業・食品加工



Global Activities

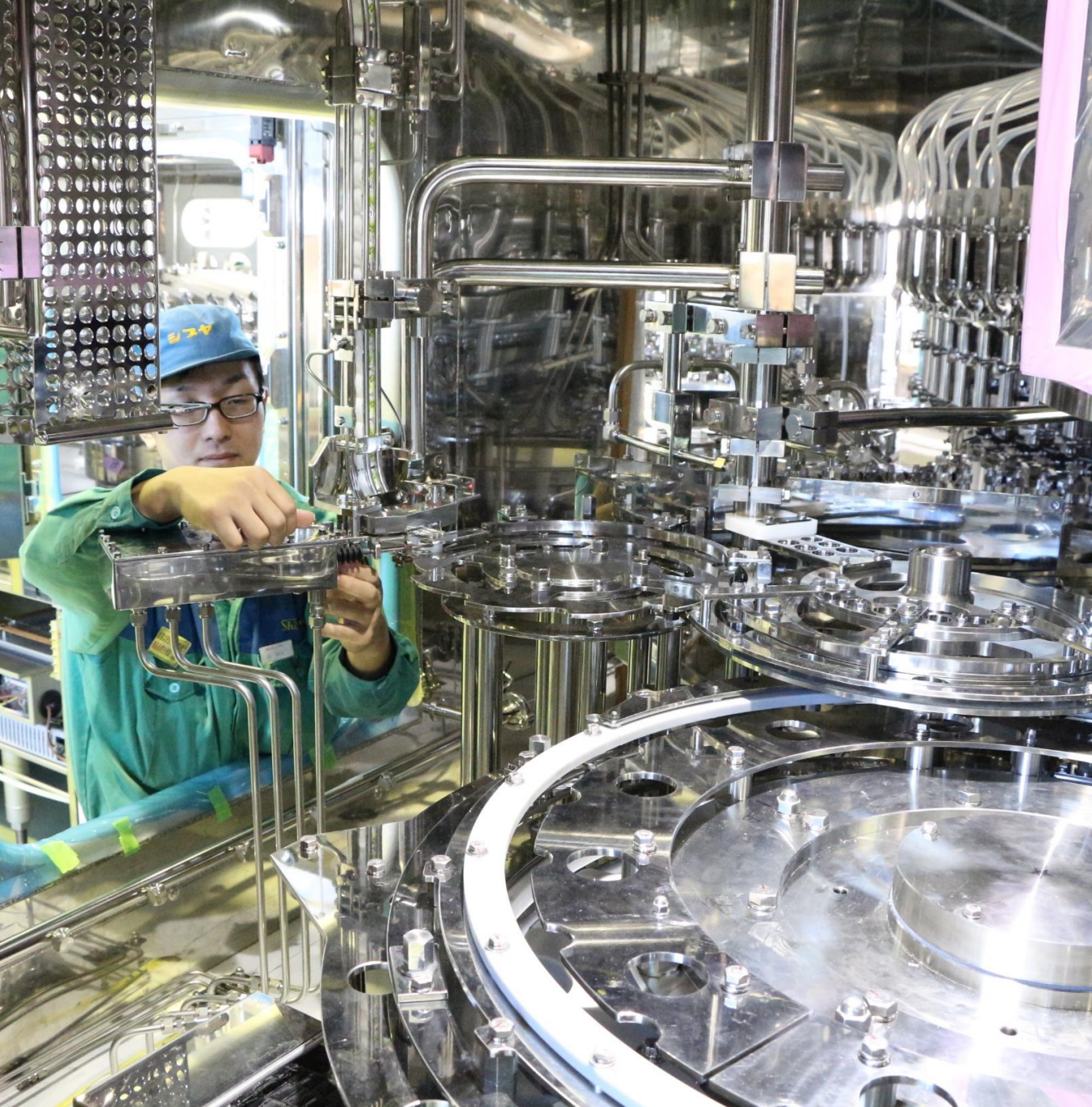
私たちの活動範囲

世界106カ国へシブヤのシステムを納入しております



● ボトリング (飲料・食品・日用品・化粧品)	約 9,000 台
● 製薬設備 (注射薬・ワクチン)	約 1,400 台
● 再生医療 (細胞培養)	約 200 台
● 包装設備 (食品)	約 5,200 台
● 医療機器 (透析装置)	約 179,200 台
● 半導体設備 (ボンダー・超音波装置)	約 14,900 台
● 農業設備 (選果選別装置)	約 700 台

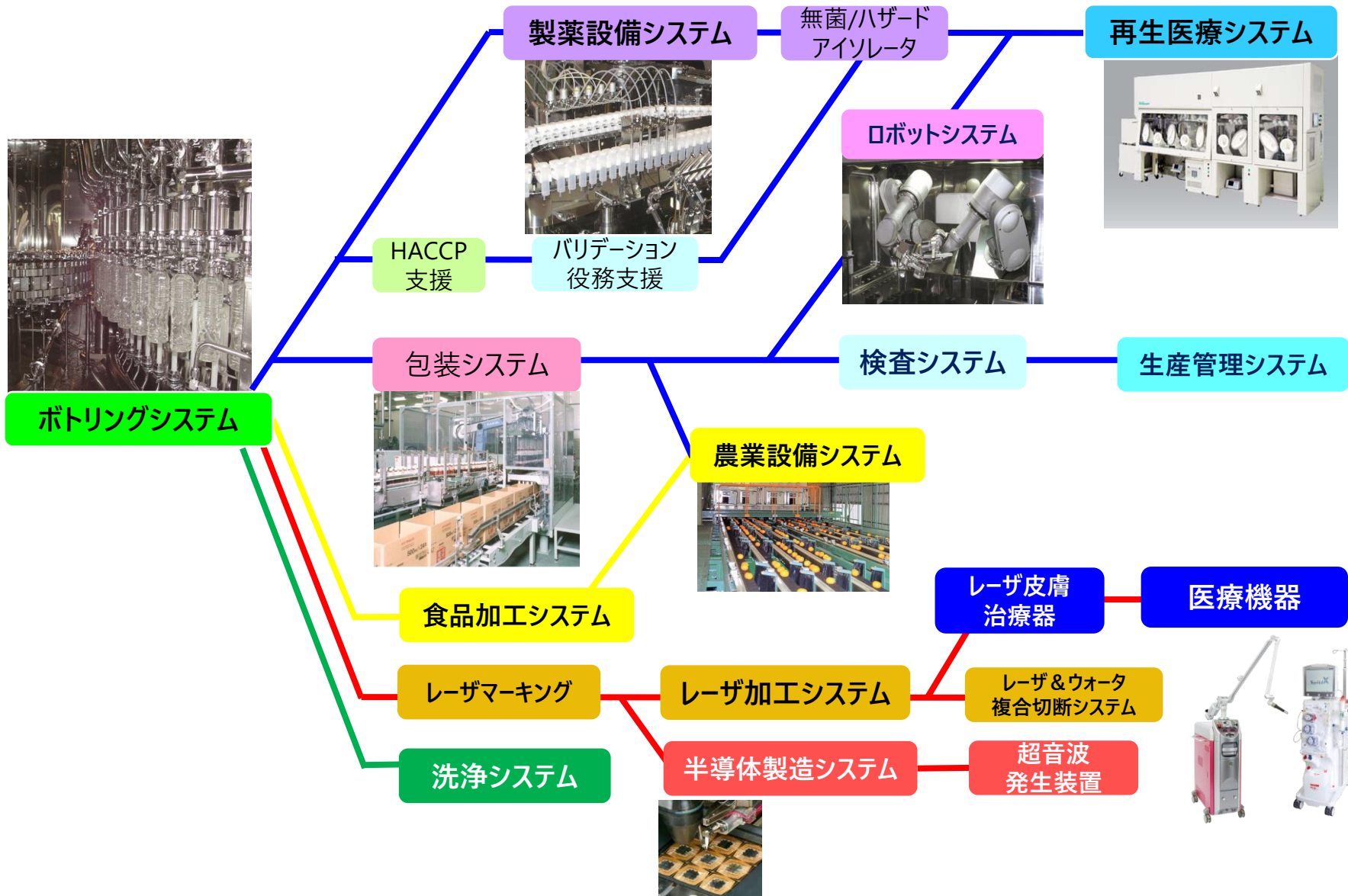
(2000年～2024年納入)



II. シブヤの強み

Our Strengths

コア技術を応用し異分野へ展開



ボトリング・無菌技術を「コア技術」としてイノベーションを他の事業分野へ拡大

継続的なイノベーションの徹底

- 一升瓶の洗浄から多品種兼用のボトリングシステムへ展開
- 無菌充填システムは事業の最大の柱

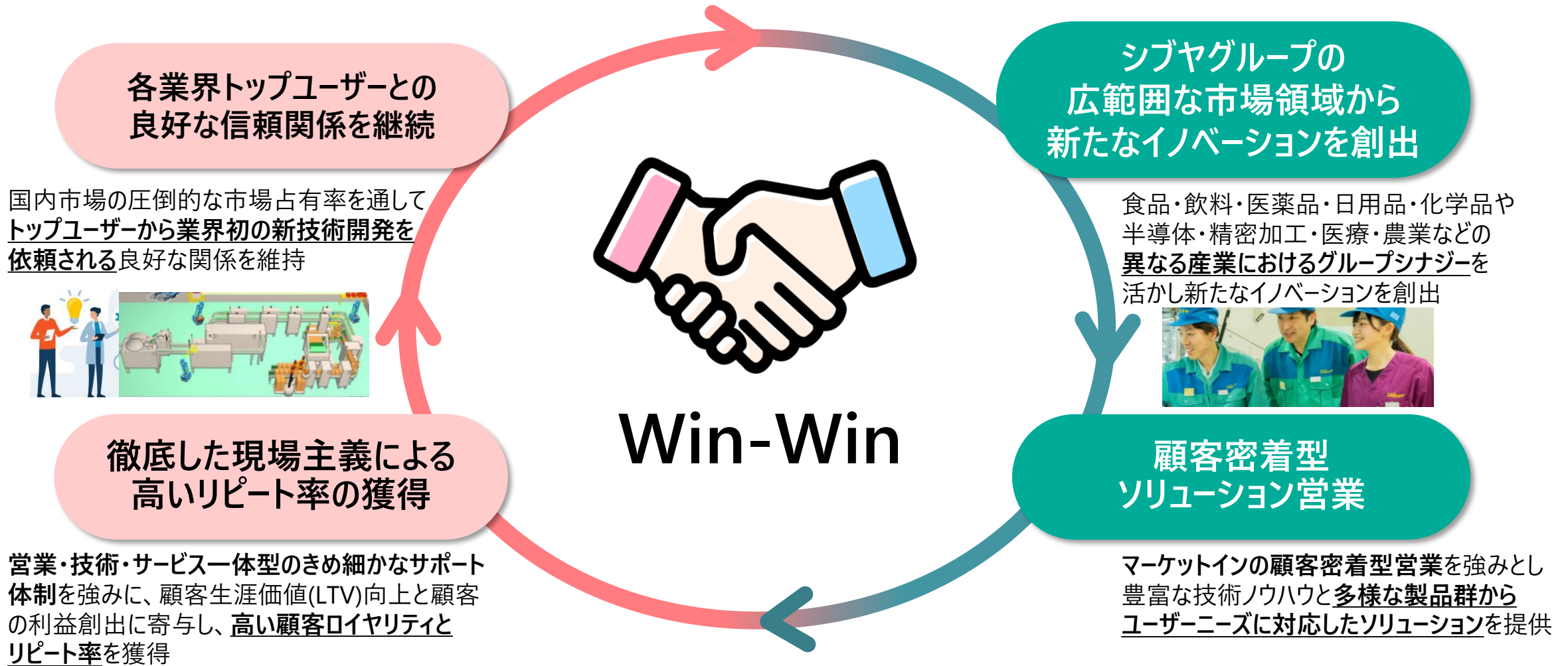
応用開発で新たな分野へ進出

- ビール業界のレーザーマーキングからレーザー加工分野・半導体業界・医療機器へ進出
- 滅菌・無菌維持・検証技術を基盤とした製薬用アイソレータは再生医療へ進化

市場ニーズや共同研究からも新開発にチャレンジ

- 顧客との対話や積極的な産官学連携から常に「ダントツ製品」開発をめざし、新市場・新事業へ挑戦

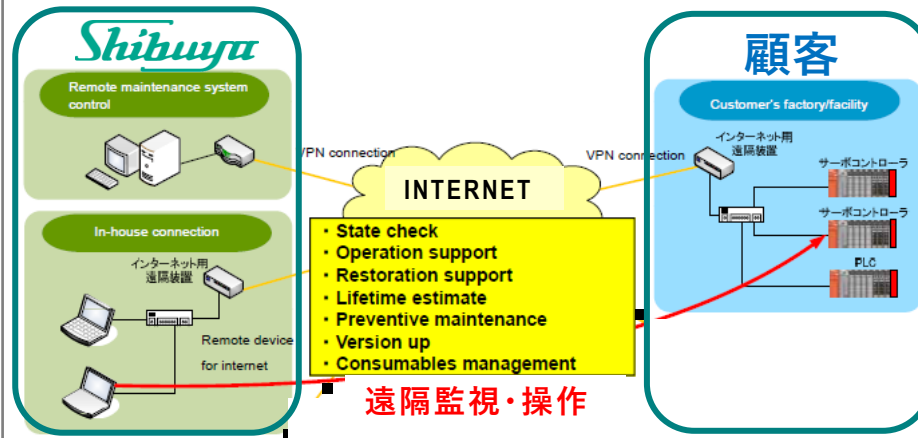
顧客に直結した営業・サービス体制



デジタル化・DXを活用したものづくり (1/2)

社外DX

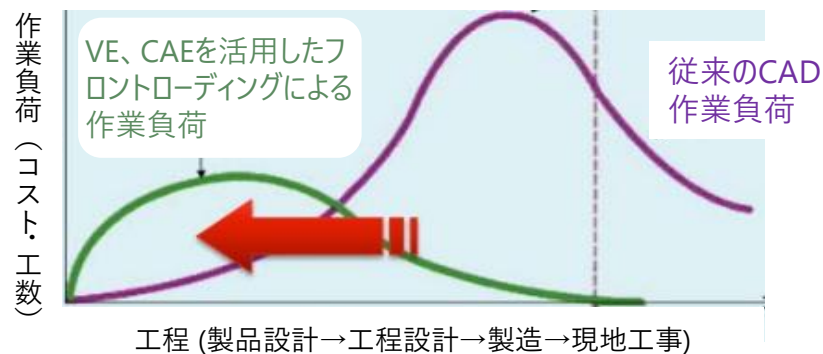
ボトリングラインにおけるスマートライン・ファクトリーの提供



- 顧客システムに直結したトータル管理/制御システムを提供
 - ロボットオペレーションシステムによる設備、ロボット、自立走行搬送ロボットなどの統合制御を実現
 - サービスサポートのDX、デジタル化
- 製造DXにより顧客の成長に貢献

社内DX

バーチャルエンジニアリング活用による生産性の向上



- 3Dデータを活用したバーチャルエンジニアリングを全面的に採用
 - バーチャルエンジニアリング・CAE (Computer Aided Engineering) によるフロントローディングの推進
 - 生成AIの有効活用
- 開発スピードと信頼性の向上、作業負荷の低減

デジタル化・DXを活用したものづくり (2/2)

社内DX+

一気通貫ものづくりDXプロジェクトを発足

- ▶ 社長を筆頭に、管理・営業・生産部門から
全社横断的に編成
- ▶ 「見積→受注→計画→調達→設計→製作
→納入→メンテナンス」連携のDX
- ▶ 2026年6月までに構築
システム導入費 約3億円

DXの取り組みを加速

「一気通貫ものづくりDX」を推進

澁谷工業

澁谷工業（金沢市、
☎076・262・1
201）は、DX（デ
ジタルトランスフォー
メーション）の取り組
みを加速する。主力の
ポトリンクシステムな
どを手掛けるプラント
部門のDXを推進する
ためのプロジェクトを
このほど発足したと発

表した。今回新たに発
足した「一気通貫もの
づくりDX」プロジェ
クトは、引き合いから
受注、計画、設計、製
作、納入、アフターメ
ンテナンスまでの各業
務プロセスを見直すこ
とも、部門を超えた
連携により全体最適を
図る。生産計画におけ
る生産予測精度の向上
や情報伝達のスピード
を高め、あらゆる業務
の生産性向上につなげ
る考え。

これまで新たな製品
やサービスを創出する
ため、顧客や取引先な
ど社外へのDXに取り
組み、時代のニーズの
応える付加価値を提供
し、顧客満足度向上に
努めてきた同社。新た
に社内DXを推進する
ため昨年9月から同社
プラント生産統轄本部
内にDX推進部門を設
置し構想を検討してき
た。今回その実現に向
けてプロジェクトを立
ち上げ本格的に展開し
ていくもの。プロジェ
クトメンバーは、澁谷
英利社長を筆頭とし、
管理・営業・生産部門
より全社横断的に編成
した。

包装タイムス
2024.7.29

人財確保と育成

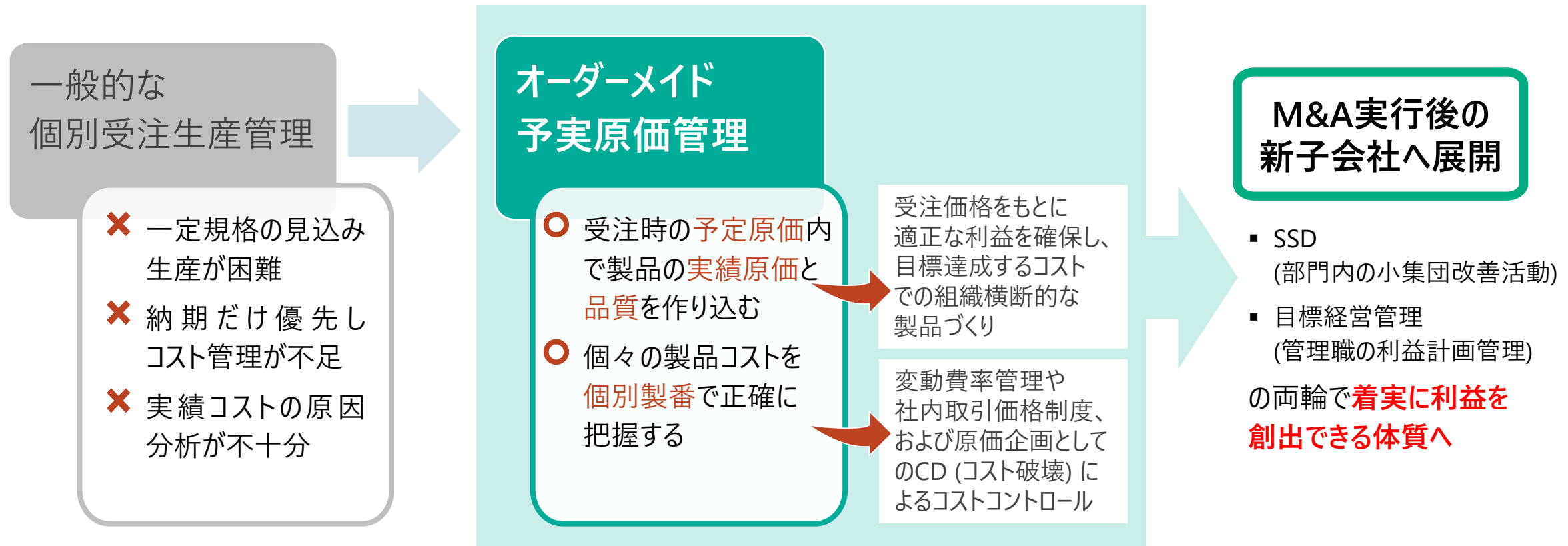
- インド理工系トップクラスNITTE大学と提携し、
プログラミングやデータサイエンスなどを修得した
新卒10名を採用
- 産学官連携教育プログラムと共同開発による
DXおよびグローバル人財育成プログラムの推進



- 顧客サービスの向上
- 生産性の向上、作業負荷の低減
- 取引先との連携強化

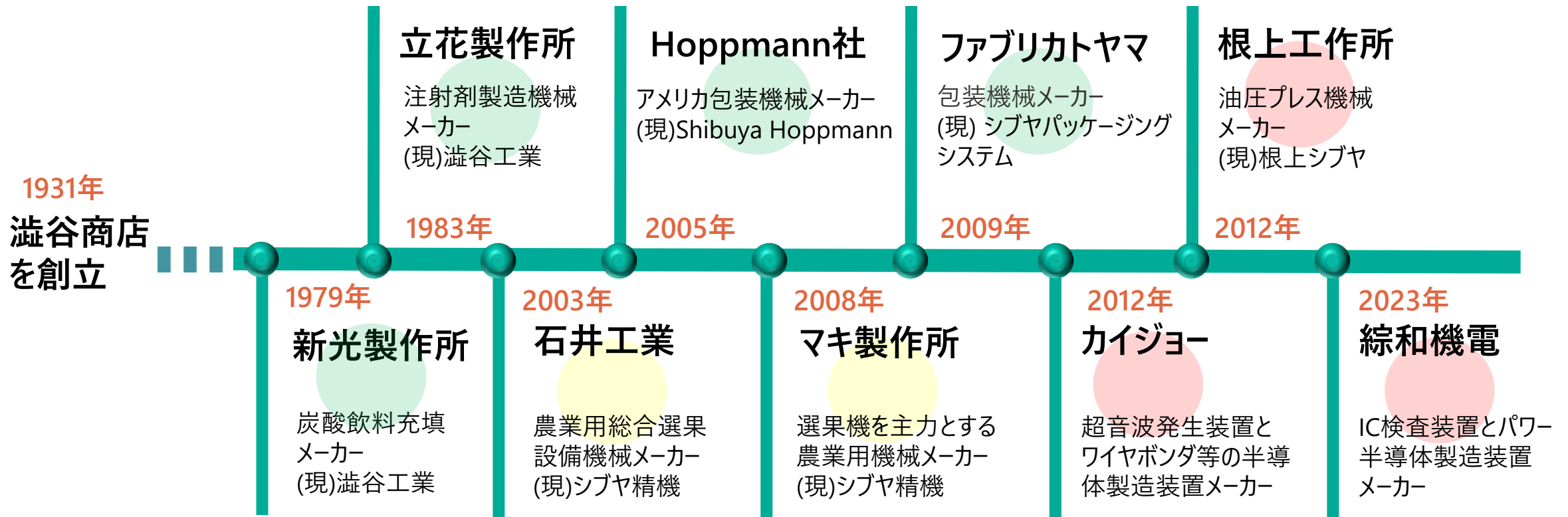
シブヤ独自の経営管理体制

- 「その都度仕様内容により製品自体が変化する」受注生産型事業に対応した独自の管理手法
- 長年の歴史の中で受注生産のための「予実」原価管理を何度も見直し磨かれた実績
- 新製品・新事業やM & A後の新子会社へも「シブヤ流」の管理方法を適用



M&Aによる業容拡大

- M&Aを通じた新しい領域への参入により、新技術や新市場を獲得しコア技術とのシナジーを生み出してきた

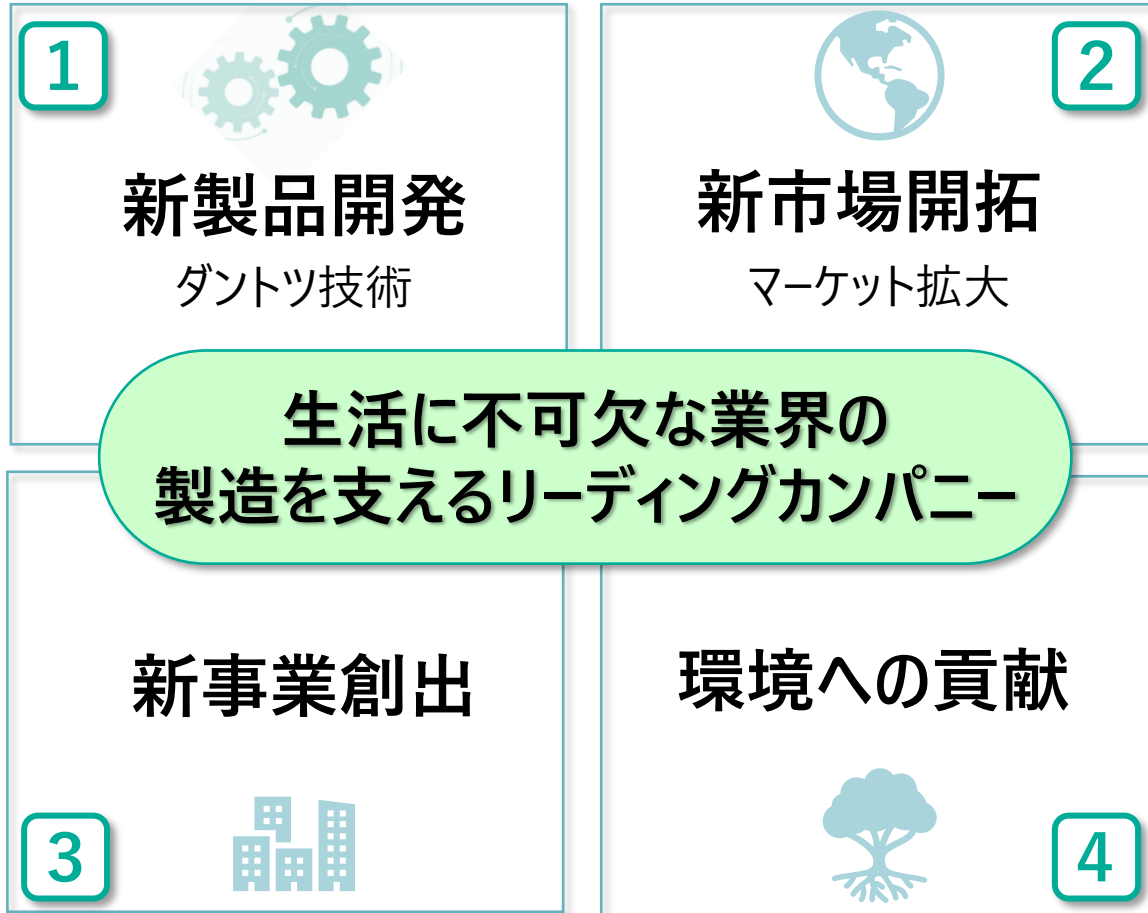
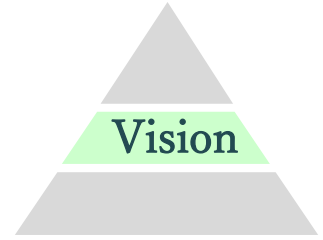




III.成長戦略

Growth Strategy

2030年ビジョン



当社は、創立以来「**カスタマー・ファースト**」を貫き、人々の生活に必要な不可欠な業界の製造システムを開発・販売してきました。

培われた技術の応用展開と新たに開発した技術との融合によって新しい分野にチャレンジし、環境と社会に貢献することに努め、**新製品・新市場・新事業の成長エンジン**によって、

2030年売上高2,000億円

の達成に向けて取り組んでいます。

1

新製品開発

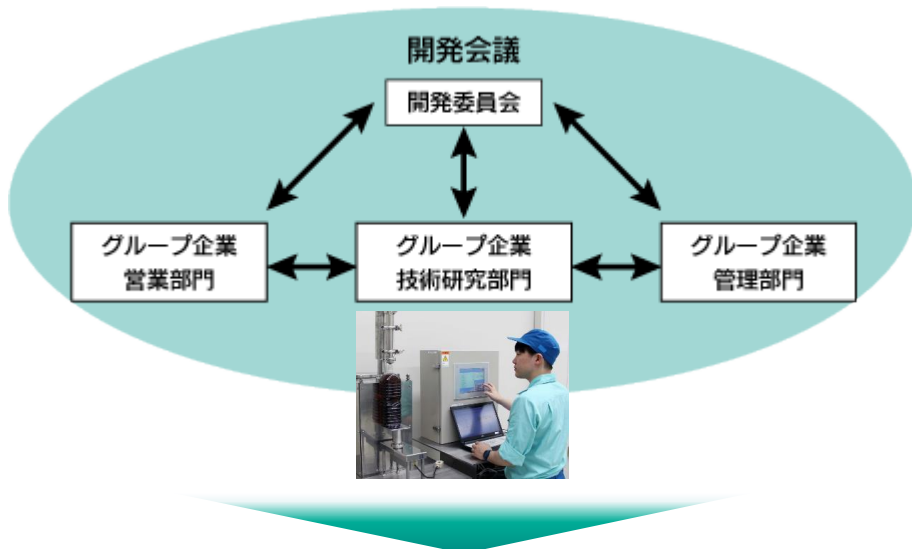


顧客ニーズの発掘、技術陣の改善意志、産学官連携などをベースにイノベーションを創出し、チャレンジ精神と独創的な先端技術を具現化した「ダントツ製品」を開発します。

開発体制

< 開発会議 >

グループ企業の技術研究部門・営業部門の役員・管理職が、研究開発の進捗をトップに定期的に報告し、必要なアクションを決定する。



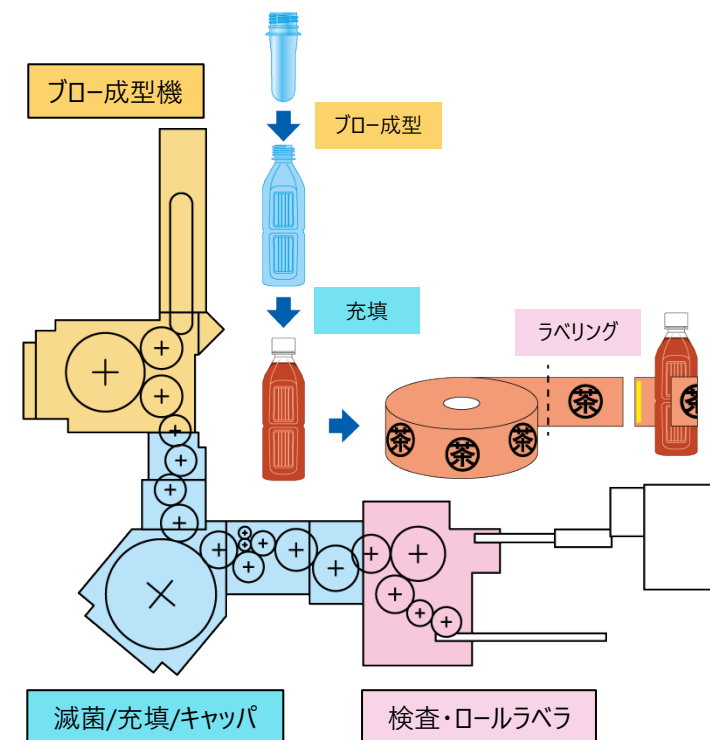
3カイ（改善・改革・開発）による研究・開発活動の成果として当社グループで2,027件の特許等の知的財産権を保有しています（2024年6月現在）

開発事例

“トリプルブロック”無菌充填システム



- ・省スペース化（20%減）
- ・高効率・省人化（40%減）
- ・搬送コンベア削減（電力40%減）
- ・容器の変形破損削減と軽量化
- ・AGV自動搬送



2 新市場開拓

新興国をはじめ他市場における健康意識の向上と透析患者の増大を背景に、海外市場を拡大し、世界の人々の健康を支え、増進する社会に貢献します。

低酸性飲料*の
需要増加を背景に
海外市場を拡大

パッケージング
プラント事業

ボトリング
充填設備

- 国内アセプ市場のシェアは80~90%
- 海外では、北米やアジア・新興国の健康意識の向上から低酸性飲料の需要が増大
 - インドネシアやインドに現地法人を設立し、お客様へのサポート体制を強化

シブヤの無菌充填システムは、高度な無菌操作が特徴。
乳飲料や茶系飲料などの低酸性飲料*の充填において大きな優位性を持っています。



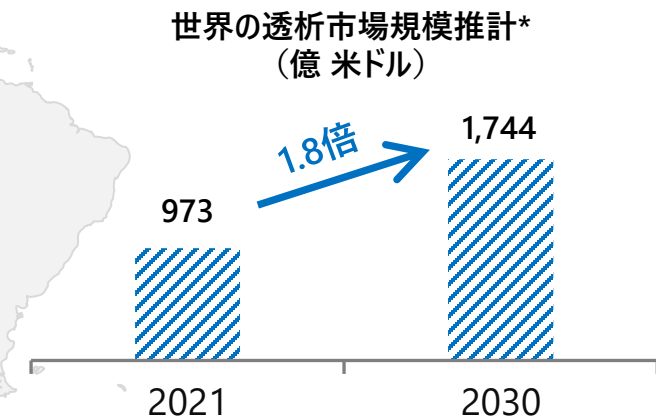
* 低酸性飲料とは、乳飲料や茶系飲料などのpHが4.6以上の飲料で、細菌が繁殖しやすく腐敗しやすいため、厳格な品質管理が求められる。

世界の透析患者
増加に対応し
生産能力を拡張

メカトロシステム
事業

医療機器

- 米国FDA認可を取得し、北米向け出荷を本格化
- 中国、インドを中心とした透析患者の増加による中長期的な需要増大
 - 生産能力拡張と生産工程自動化、DXを推進



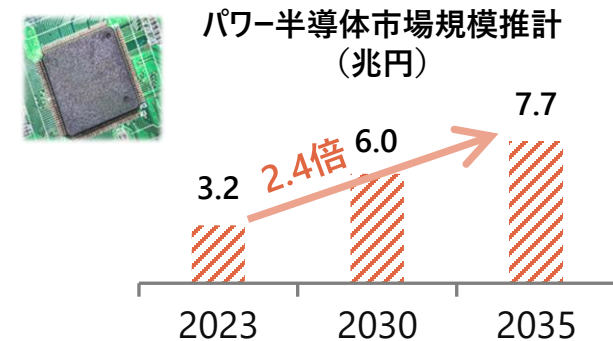
(出典) Panorama Data Insights report (2022.2.24)

3 新事業創出

お客様のニーズにお応えすることの積み重ねが新事業の創出に繋がり、必要に応じてM&Aを活用し、事業領域を拡大します。

M&Aの活用

- パワー半導体製造装置メーカーの 綜和機電(株)がグループ入り (2023年)
- 今後も継続的に戦略的なM&Aを検討



(出典) 富士経済「2024年版次世代パワーデバイス & パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」

再生医療

国内・海外でのアイソレータおよび自動培養システムの販売により、再生医療の産業化をサポート

- 慢性疾患・遺伝子疾患・高齢人口の増加
- iPS細胞の開発などによる技術革新
- 各国政府による積極的な規制緩和

ハードウェア
(作業の標準化・自動化)



バイオマテリアル
(効率化・DDS)



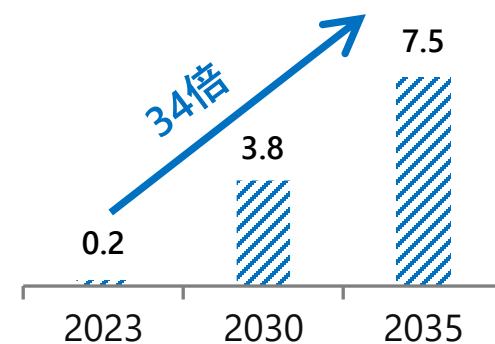
ソフトウェア
(品質管理のデータ化)



細胞受託加工
(細胞培養生産支援)



再生医療グローバル市場規模推計 (兆円)



(出典) AMED「第1回再生・細胞医療・遺伝子治療開発協議会」

4 環境への貢献

エネルギー・水・資源などの消費削減に寄与する製品・サービスの開発・提供を通じて、持続可能な社会に貢献するとともに、企業価値の向上を図ります。



プラスチック
使用量削減



PETボトル
飲料無菌
充填システム



- ✓ PETボトルの薄肉軽量化
- ✓ 再生PET樹脂100%ボトルに対応

水と薬剤の
使用量削減



- ✓ 従来の薬剤H2O2滅菌方式に比べ洗浄水を大幅削減

省エネ
フードロス削減



“JESTOS”
過熱水蒸気式
焼成機



- ✓ 過熱水蒸気による高温・低酸素状態の調理法で味の劣化防止
- ✓ ドリップの少ない焼成により歩留まり向上

水使用量の
削減



“SAMACS”
3次元ノズル式
洗浄装置



- ✓ 少水量で強力な洗浄
- ✓ 3次元洗浄ノズルにより、ムラ無く短時間で洗浄



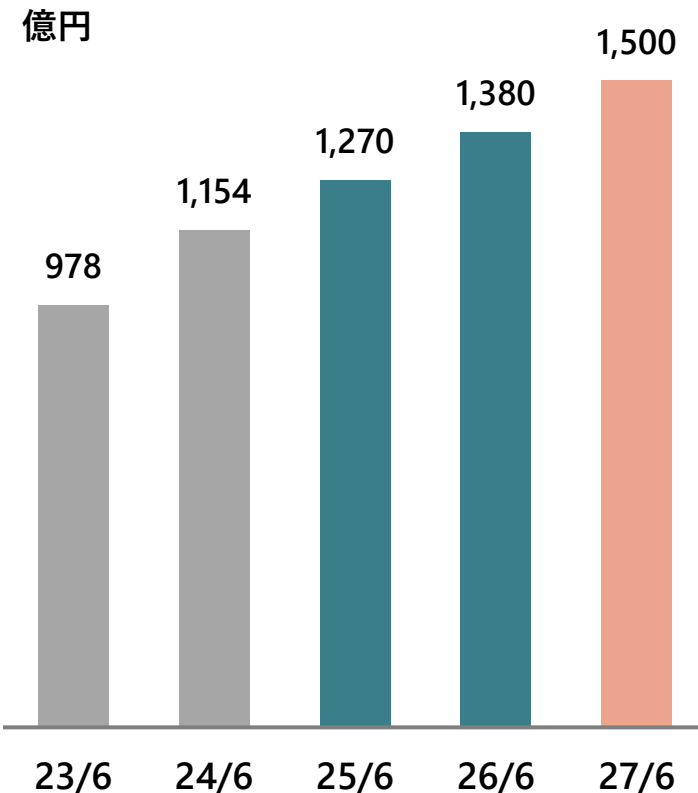
IV. 中期経営計画

Mid-term Business Plan

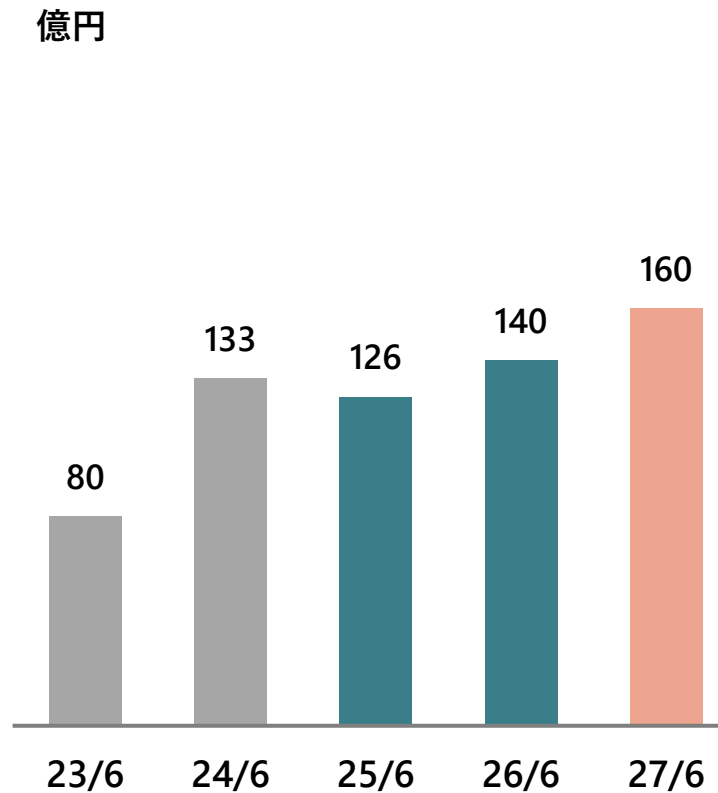
中期数値目標

2027年6月期に売上高1,500億円、営業利益160億円を目標

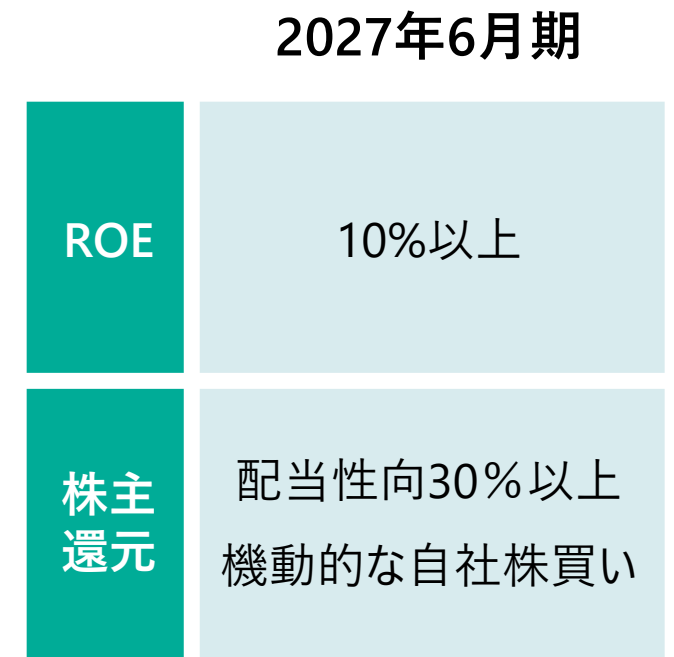
売上高



営業利益



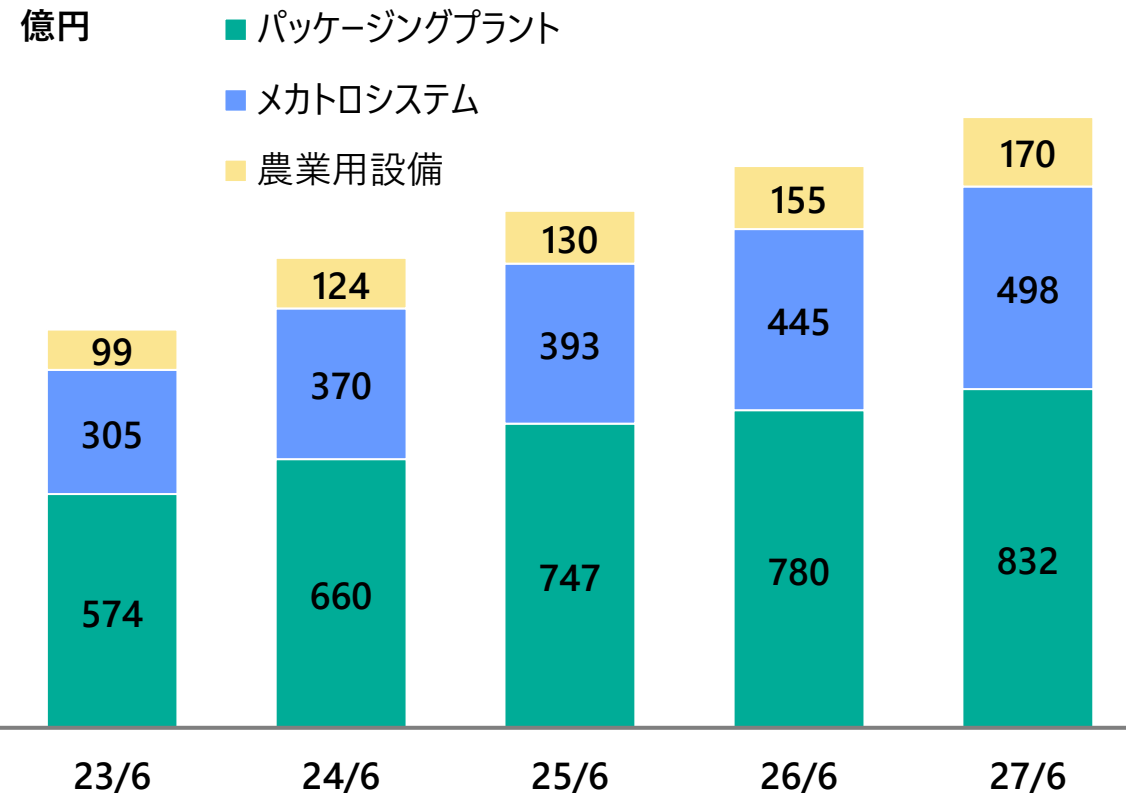
資本効率 / 株主還元



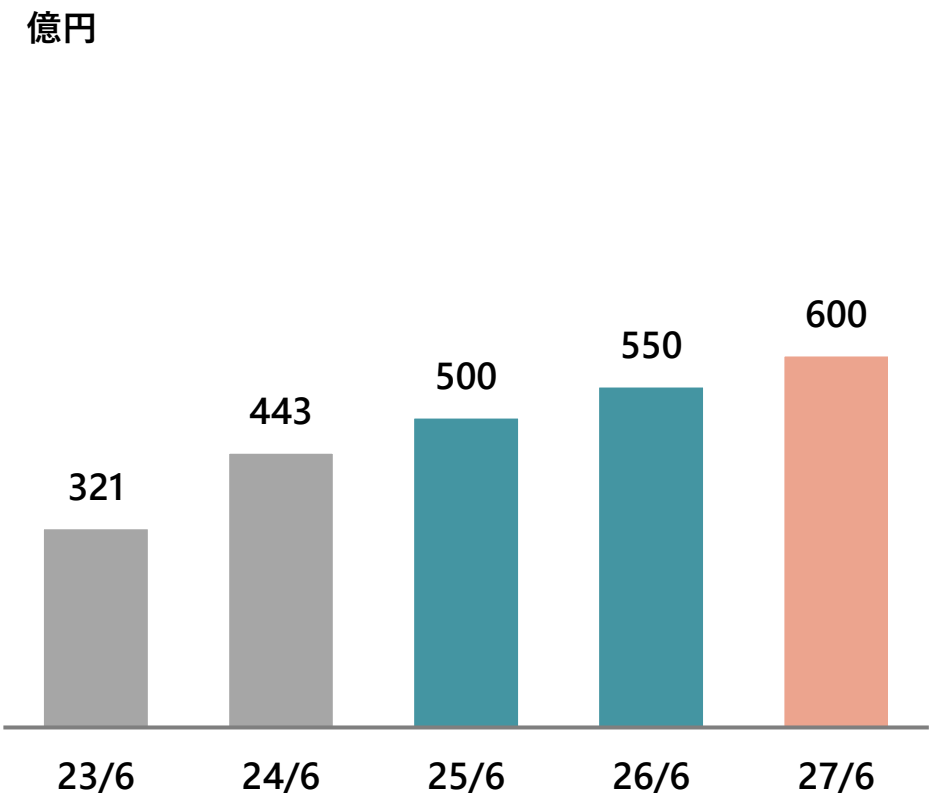
戦略目標

戦略目標として、セグメント別売上高および海外売上高を設定

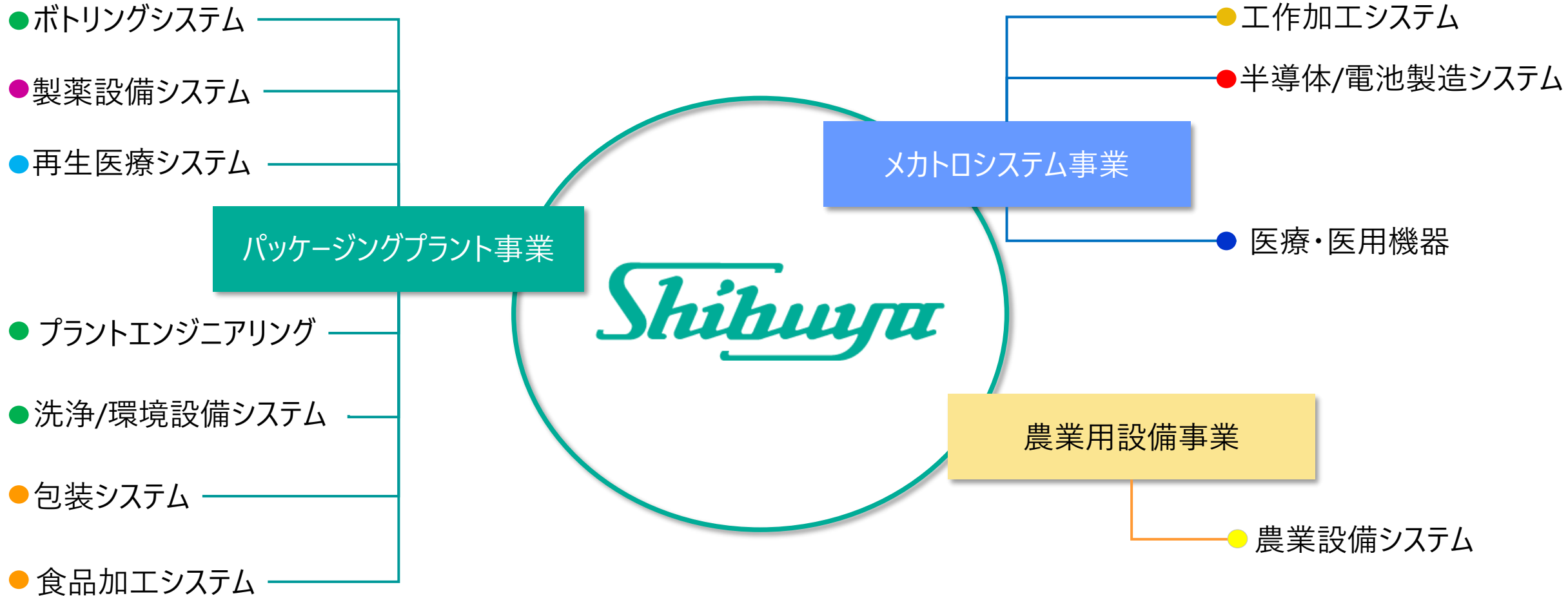
セグメント別売上高



海外売上高



事業展開 (セグメント別)



※パッケージングプラント事業の売上高の集計は、ユーザー業界別（「酒類」「食品」「薬品・化粧品」「その他」）としていますが、本資料では「酒類」と「その他」を合算し、「酒類他」として表示しています。

パッケージングプラント事業

食品用プラント

国内ボトリングシステム

- DXの活用等による高効率ラインを提供
- リサイクルPETへの対応など環境・省エネ対応ラインを提供
- トータルエンジニアリングとアフターサポート強化

海外ボトリングシステム

- CSと納期短縮・コスト破壊の両立でグローバル競争力を強化
- 健康志向、衛生意識の高まりに対応し、北米市場への拡販、インド・アジアへの進出

食品加工

- 冷凍野菜需要の拡大に対応し、農産品加工市場へ参入

薬品・化粧品用プラント

製薬設備

- 海外向け汎用戦略製品を特定し、海外市場を開拓
- 無菌・微量充填の技術を活かし、新製品・新分野へ展開

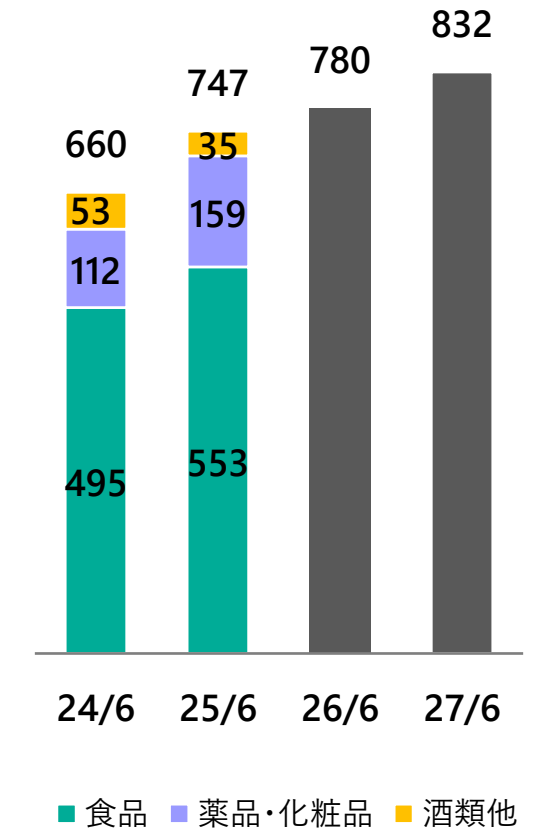
再生医療

- 国内・海外でのアイソレータおよび自動培養システムの販売による産業化サポート
- 大学・バイオベンチャー・大手メーカー等との共同開発により、最先端の現場でビジネスを展開

👍 ボトリングシステムにおけるZHAプロジェクト

- 2023年1月、全員本気でアセブビジネスの競争力強化に取り組む組織横断的な「ZHAプロジェクト」を発足
- 従来の設計だけのコスト削減に対し、本PJは、設計・生産・営業・サービスの4部門がCD(コスト破壊)に取り組む
- マーケティング、提案改善、ものづくり変革、CS強化など多方面からみたシステム設計見直しにより、部品削減・工数削減・納期短縮・工事短縮などを実現

パッケージングプラント事業売上高



メカトロシステム事業/農業用設備事業

メカトロシステム事業

医療機器

- 世界的な透析機器市場の増勢を背景に海外向けラインナップの強化
- グローバルな安全品質基準を確立し生産ラインの自動化、DXの推進

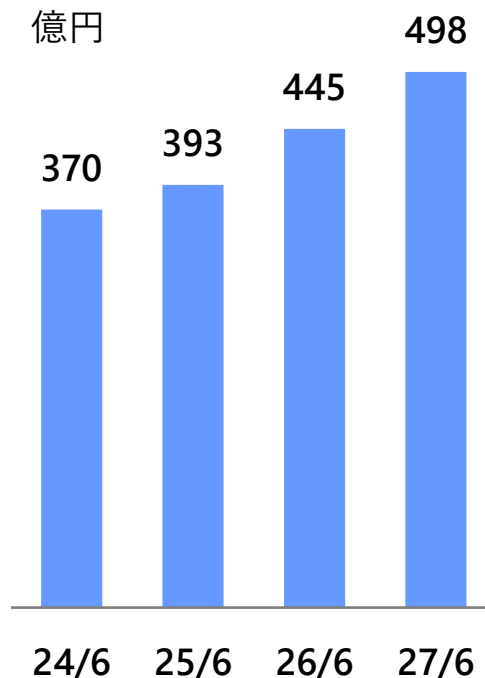
半導体製造システム

- AI用半導体、EV向けパワー半導体など成長分野に資源を集中し、ナノ対応の検査、製造装置を市場投入

工作加工システム

- 新型ファイバレーザ加工機の拡販に注力
- 従来型ガスレーザ機の顧客固め

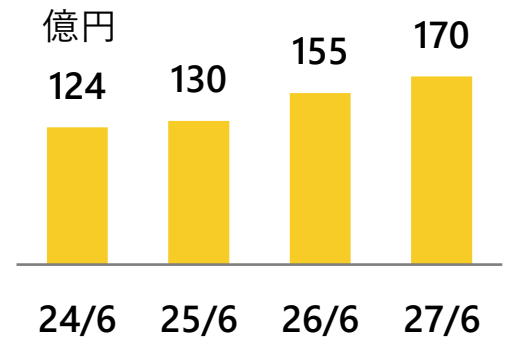
メカトロシステム事業売上高



農業用設備事業

- AI×ロボット技術でイノベーションを実現し、無人化ラインの提供に挑戦
- アジアを主軸に海外展開

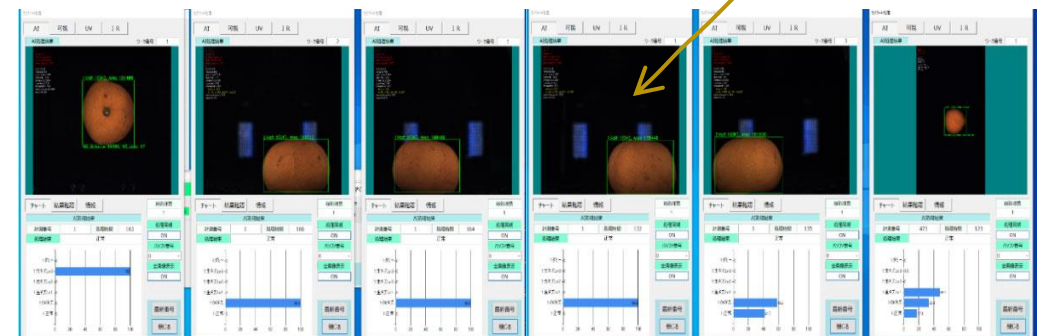
農業用設備事業売上高



 AI導入により加速するイノベーション

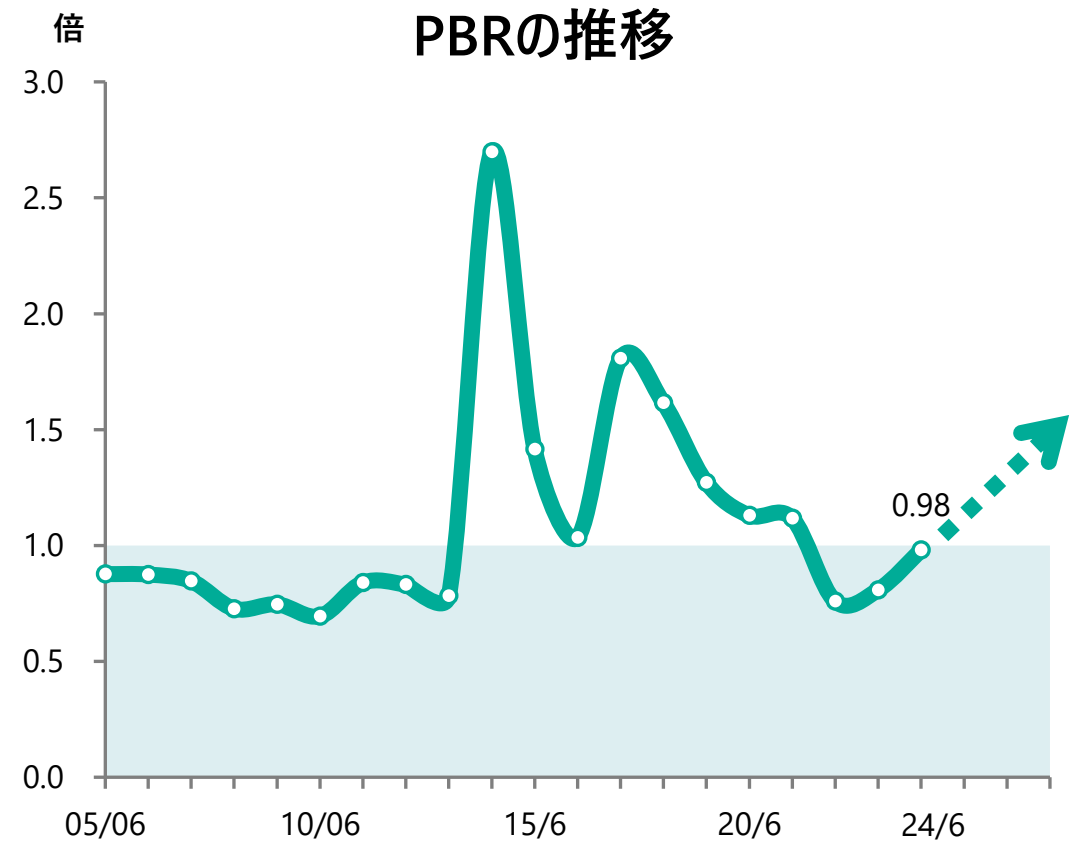
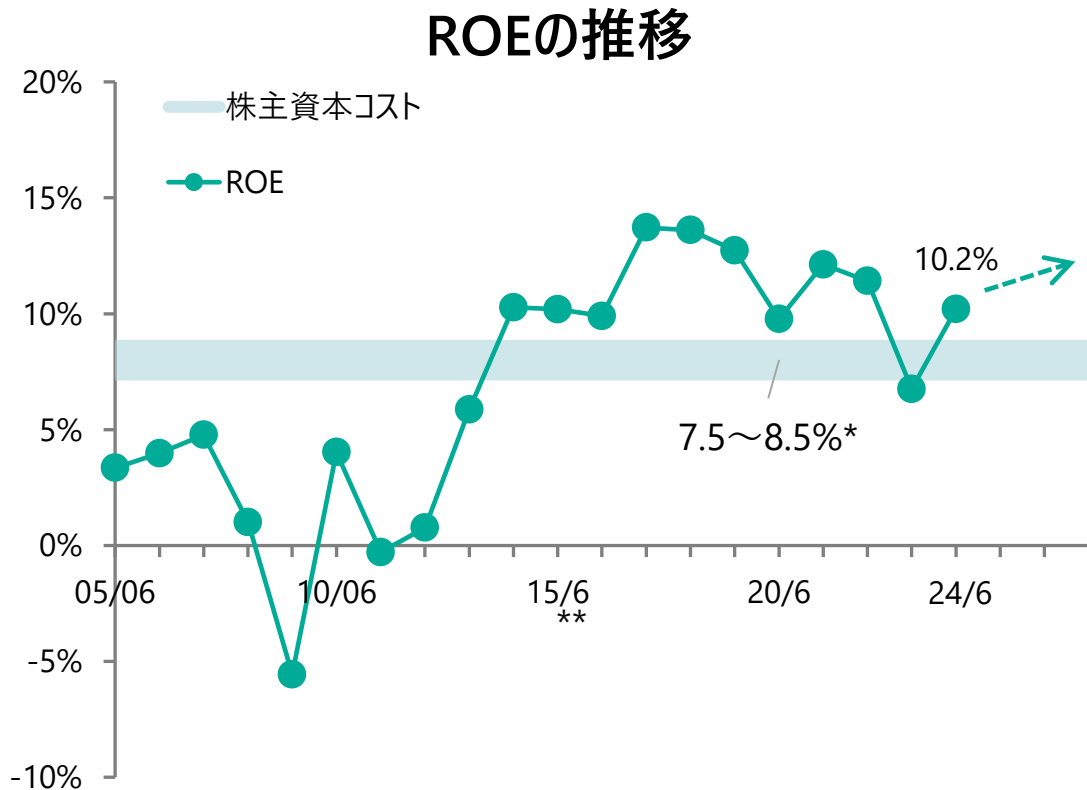
最大6カメラを使用した「新型外観センサー」

ヘタ落ちや生傷、病気の種類など、家庭選別で判断の難しいものに加えて、従来の画像処理では判別できなかった馬鈴薯のそうか病や将来腐る傷なども瞬時に判別



資本コストや株価を意識した経営

株主資本コストを上回るROEを達成し、長期持続的な企業価値の向上を目指す
成長投資の実施、株主還元策の拡充により、資本市場からの評価を高めていく

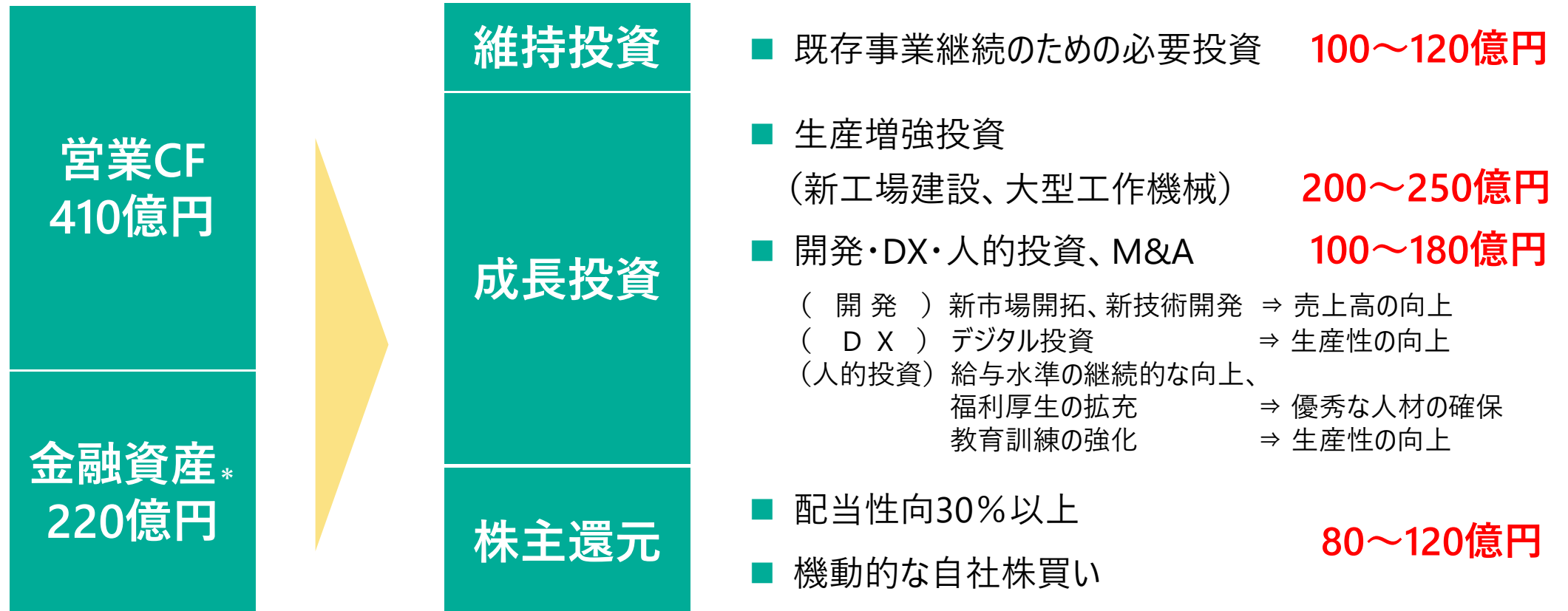


* 株主資本コストはCAPMや市場の期待値など複数の手法で推計

** 2015年6月期において、厚生年金基金代行返上益7,354百万円を特別利益に計上していますが、上表のROEからは除外しています。

キャッシュアロケーション方針

生活に不可欠な業界の製造を支えるリーディングカンパニーとして、健全な財務基盤を維持しつつ、成長に向けた投資を拡大し、その成果を更なる投資と還元へ振り向けていくことで、資本収益性の向上をはかる



* 運転資金250億円を控除後

生産増強投資の概要

受注増加への対応として、4工場(①～④)の建設を決定し、建設中の工場(⑤)と合わせ、**投資総額は243億円の計画**です。2027年1月には全て竣工する予定であり、本中期経営計画の期間中での支出は200億円以上となる見込みです。

	工場名	対象製品	投資予定額
①	森本テクパーク 新工場 (仮称)	ボトリング充填設備	91億円
②	森本第3機械工場		13億円
③	能美第2機械工場		38億円
④	医療機若宮工場B棟	医療機器	33億円
⑤	シブヤ精機(株) 浜松新本社工場	農業選別設備	68億円

渋谷工業、175億円で4工場

渋谷社長は175億円を投じ4棟の新工場を建設する方針を明らかにした(9日、金沢市)



渋谷工業は9日、総額175億円を投じ金沢市などに工場を4棟建設すると発表した。4棟とも2025年夏に着工し、26年6月～27年1月までに完成させる。3棟は主力の飲料用充填機、1棟は人工透析システムを製造する。健康志向の高まりから海外でも乳製品や茶系飲料の需要が増えるの見込み、製造に必要な飲料用充填機の生産能力を増強する。

飲料充填機の生産増強

した。同社は無菌で容器に飲料を入れる技術に強みがある。渋谷社長は「高いグレードの無菌が求められる乳製品や茶系飲料など『低酸性飲料』の需要は、健康志向の高まりから様々な国で増える」と分析。飲料用充填機の生産能力は3棟合計で30%増える。

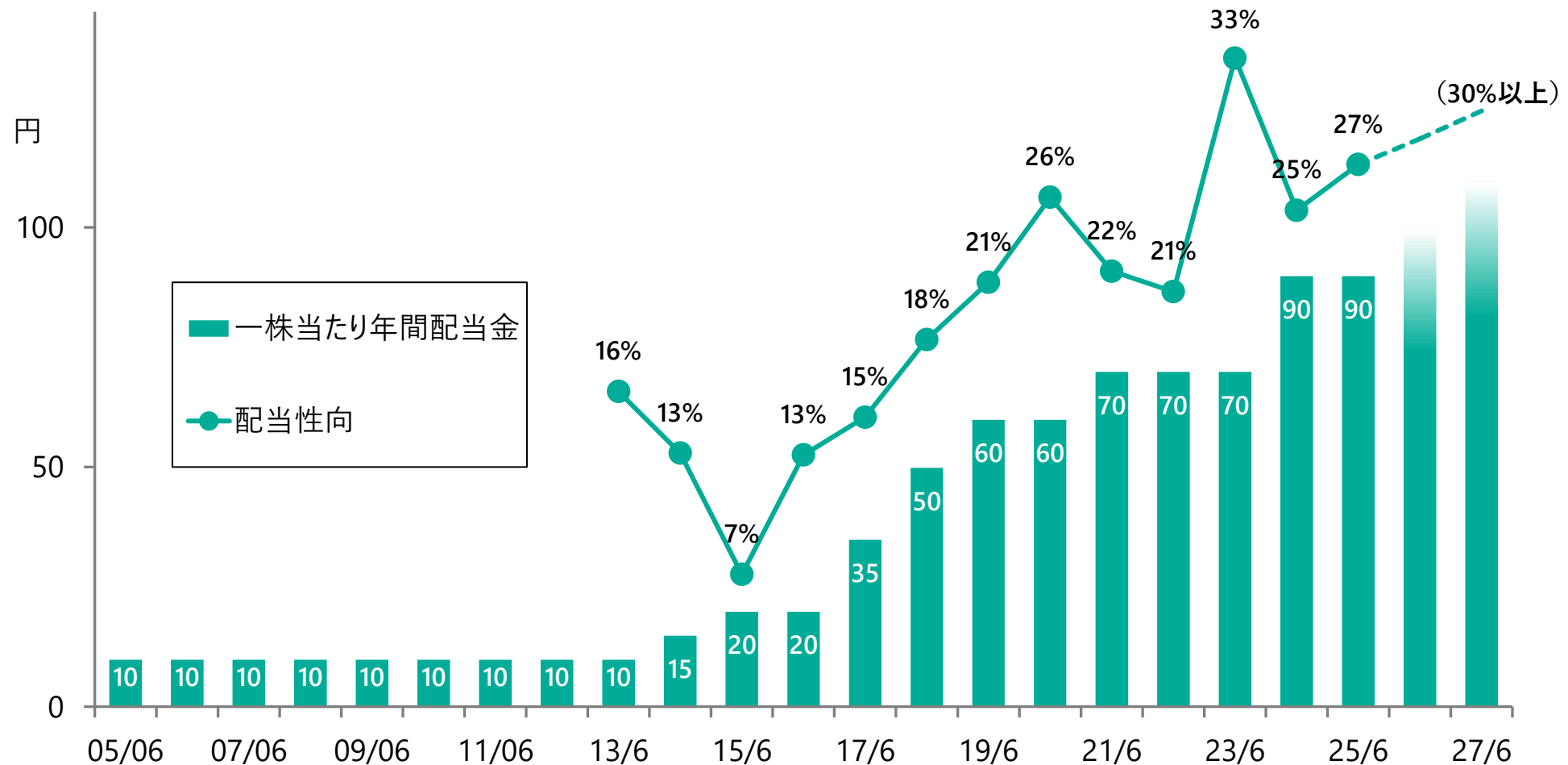
最大規模となるのは金沢市に設ける「森本テクパーク新工場」(仮称)で、同市から土地を取得し建設する。同工場は飲料用充填機の部品加工と組み立てに充て、延べ床面積は約1万5000平方メートル。飲料用充填機用の残る2工場は部品加工などを担い、金沢市と石川県能美市にある同社敷地内でそれぞれ建設する。

人工透析システムの新工場には33億円を投じた。同社は30年までに連結売上高を2000億円とする目標を掲げ、インドに新たに営業拠点を設けるなど海外戦略を強化している。同日発表した24年6月期の海外売上高比率は約4割だった。

25年6月期の連結純利益は前期比6%減の92億円を見込む。人的投資の増加や原材料価格の上昇が影響する。売上高は前期比10%増の1270億円になる見通し。

株主還元方針

2027年6月期に配当性向30%以上を目標とし、安定的かつ継続的な株主還元を実施いたします。
自己株式の取得を機動的に実施いたします。 (当社は1996/6期以降減配を行っておりません)



顧客、地域社会に寄り添うESG戦略

Environment (環境)

- 2020年度を基準に、2030年度30%の温室効果ガス排出量の削減目標（Scope1+2）を設定。工場はLED化を完了し、今後は事務所、子会社のLED化を進めるとともに、再生エネ電力を活用し目標達成を目指す。
- 環境価値の提供を基本戦略とし、水を使用しないで滅菌する技術（EBボトル滅菌システム）や、PETボトルのより薄肉化・軽量化対応の技術開発により、顧客の水使用量、プラスチック使用量の削減に貢献。

Social (社会)

- 「喜んで働く」を実践し、社員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇、ダイバーシティの尊重を基本理念として制定。定年の引き上げ、女性総合職の採用の強化やグローバル人材の獲得によりダイバーシティを図る。
- スーパースチーム等の賞味期限延長（ESL）技術による食品ロス削減や、無菌充填システムにおける再生PET樹脂100%ボトル対応技術によるプラスチック資源の循環に貢献。

Governance (ガバナンス)

- コンプライアンス行動規準を制定するとともに、2023年8月には多様なステークホルダーとの協働に取り組む「マルチステークホルダー方針」、取引先との価値創造を図る「パートナーシップ構築宣言」を発表。
- 取締役および社外取締役で構成する指名委員会・報酬委員会を設置、女性取締役の就任。

SDGs

- 目標経営管理の方法として、SDGs17グループに紐づけた活動を実施。技術部門の全部門に広げて運動を展開。

World Leading Technology

Shibuya

澁谷工業株式会社
シブヤグループ

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
また、本資料は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。
今後の実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。